

[5] セメント工業

12/11 13/12 ◎ 伸び率 10%以上 ○ 伸び率 0~▲10%
: 天気図; ◎ ○ 伸び率 0~10% ● 伸び率 ▲10%以下

1. 企業経営動向

1) 需要

平成12年度末まで、セメントの国内販売の不振や、輸出量の減少等により需要はほぼ横這いに推移。平成13年度に入ってもその傾向は続くと見られ、まず、輸出については、中国、香港及びシンガポール向けが好調であったものの、台湾、マレーシア向けの輸出が減少し、全体についても減少の傾向が見られる。一方、輸入については、韓国製品、台湾製品の輸入増等から増加しており、特に韓国については、97年秋頃からのアジア経済危機を受け韓国の内需が激減し、供給過剰となった同国メーカーが輸出に力を入れたことにより、98年以降対日輸出が増えてきたことが輸入の増加した原因と見られる。また、内需についても、官公需や民需の減少により依然厳しい状況が続くと見られ、こうしたことから、需要については、当面、横這い若しくは緩やかな減少が続くと見込まれる。

2) 生産、設備

直近の動向としては、平成12年度のセメント生産は8,237万トンと対前年度比0.2%増とほぼ前年並みとなった。しかしながら、国内販売、輸出量とも対前年度と比べて横這いより若干減少気味であり、期末在庫については同3.0%と増加している。また、ここ数年のセメント生産高の落ち込みによる稼働率の低下から工場の統廃合が進み、平成12年度3月末の設備能力は8,722万トン、工場数は37となり、平成7年度から比べると生産能力は▲11%、工場数は4工場減少した。

3) 企業収益

平成12年度はセメントの国内販売の不振や輸出数量の減少等によって売上が伸び悩み、営業利益は前年並みから若干の減収となっている。

平成13年度についても、内需の伸び悩みや、海外からの輸入の増加等による輸出の減少が見込まれることから、営業利益は前年同程度かやや減少するものと見込まれる。

4) 財務

長期資金運用の動向については、横這いの傾向を示しており、平成12年度見込みより、海外投資金額の増加が見込まれている。また、長期資金調達については、社債の割合が大幅に減少し、流動化や内部資金、の割合が増加する見込み。

2. 設備投資動向(これまでの推移、12年度見込み、13年計画)

- ・セメント産業の設備投資の動向を見ると、セメント生産量の減少からその主な投資目的は維持・補修や合理化・省力化で、その傾向は続いている。
- ・平成7年度以降については、設備投資の主な投資目的は維持・管理、合理化・省力化となっている。
- ・平成12年度の設備投資実績見込み額については、設備合理化や維持に対する経費が大数を占める見込み。しかしながら、生産量の減少に若干の回復傾向も見受けられることから、生産増強見込み額が大きく増加している。
- ・平成13年度設備投資計画額については、過去の傾向とあまり変化が見受けられないが、12年度実績見込み額同様、生産増強見込み額の割合が高く、業界の国内需要増加への期待感が伺える。

3. 長期資金調達・運用動向(長期資金運用動向、長期資金調達動向)

- ・長期資金調達・運用状況について、長期資金調達については、流動化や内部資金の割合が増加する見込み。長期資金運用の動向については、横這いの傾向。